だより

R8.1.27　Vol.36

いよいよですね！

体調が回復して登校する児童も増え、学習発表会練習も熱を帯びてきています。時々、練習の様子を見に行っているのですが、どの子も張り切って頑張っている様子が微笑ましいです。

中でも、６年生の貴壱君！練習始めは少し気恥ずかしさが出ていたようですが、練習を重ねるにつれ、「お！そんな言い方できるようになったの？」と、こちらが感心するくらいセリフの言い回しが上手くなっています。「今のいいやん！」と声をかけると、担任の石井先生の方を見てドヤ顔しています。（笑）

楽しさの中に、ちょっと乗り越えないといけない壁があって、そこを頑張ることで表現する楽しさがより増してくる。そんな練習をどの学年も進めています。乞うご期待！！

紀伊國屋みかん

事務の先生が「食べてみて下さい。」とみかんを私にくださいました。紀伊國屋みかんというものらしく、江戸時代から明治初期にかけて真穴で栽培されていたみかんだそうです。（いまもこの品種を栽培されている家が真穴で一軒、残っているそうです。）食べてみると、皮は厚いし、種もいくつか出てきます。おそらく原種に近いんでしょうね。そしてそれを食べながら、いろんな品種改良がなされて今の真穴みかんがあるんだろうなあと思いました。「耕して天まで至る」と言われる真穴地域のみかん畑、品種改良や石垣積み、スプリンクラー設置等々、様々な苦労と努力に思いをはせることができました。

四方山話真穴 ver2.　其の三十六（折り合う）

何年か前、ある学校で校舎の建築工事に伴い、１年間、運動場の半分近くが使えなくなったことがありました。様々な学習や行事をどうしていくか職員で検討し、計画を立てました。行事の一つである運動会も、今年は無理だろうということで中止とし、保護者にも伝えました。すると、「楽しみにしている行事を安易に中止にしないでほしい。」という声が多数出ました。安易に中止したわけではありません。運動場の状態、子供の安全面や種目の制限等、様々な角度から職員で話合いを重ねた結果でした。私はそれを伝えました。「安易な決定ではないです！学校としても熟考したんです！」そのやり取りの中で、学校としては、やるからにはいい加減な行事にしたくない。子供たちが一生懸命取り組む演技にしたいし、練習も含めてそんな時間にしたい。保護者としては、その気持ちはありがたいが、親としては子供が活動している姿を見られるだけでも嬉しい。いつも通りのものを求めるわけではない。そんな考えの相違が見えてきました。ならどうしていくか？体育館だとさすがに狭すぎる、運動場がどれだけ使えるかまだよくわからない、スポセンならどうか？そんな話になりました。じゃあ、とりあえずスポセンは仮に押さえておこう。もし運動場が使えても、今年はテントを張るスペースはないかも…それは先に伝えよう…と少しずつ話が具体的に煮詰まっていきました。最初はお互い感情が先に立っていましたが、話合いの中で、より良いものを一緒に目指そうという雰囲気に変わっていきました。

今の世の中を見渡すといわゆる「言ったもん勝ち」そんな雰囲気が蔓延しています。衝突を避け、目をつぶるのが賢い生き方なのかもしれません。が、私はきちんとお互いの思いを伝え合って折り合うことを目指したいし、子供にもそれを伝えたいと思っています。若い頃から「流せばいいのに、おまえはそれで損するぞ！」先輩によく言われました。が、教育現場では、いや、教育現場だからこそ、分かりあうことを目指していきたいです。

切り取り線

便りの感想や学校への要望等ありましたら、お聞かせください。今後の学校経営・運営に役立てていきたいと思います。